



[雲平筆]

およそ400年前の元和年間、初代藤野雲平が京都で創業。芯毛を和紙で巻き締め、その上に上毛(別の毛)をかけて麻糸で締める「巻筆」は腰が強く、力強い墨線が出ると書道家から高く評価されています。滋賀県伝統的工芸品。



400年継承されてきた伝統技法を守り、つないでいく15世・藤野雲平さんと息子の純一さん

大切にしたい
地域の手わざ

滋賀県の伝統工芸品にいくつもその名を連ねる高島市の特産品。これらは地元で良質な材料が手に入ることで、技術を代々守り伝える職人たちがいたこと、京都など大消費地に近いことなど、様々な条件に恵まれ、今日まで長く生産が続けられてきました。伝統のモノづくりにも、時代や社会に対応した新しい動きが見られます。たとえば、雲平筆では、蒔絵などで装飾した新しい柄を開発、扇骨づくりも新しい色で染めることでデザイン幅を広げ、商品としての価値を高めています。さらに和ろうそくでは、商品開発とデザイン力に磨きをかけ、成果を上げています。このように、次代の担い手が育ちつつあるのも心強い限りです。

伝統を守る 高島の匠

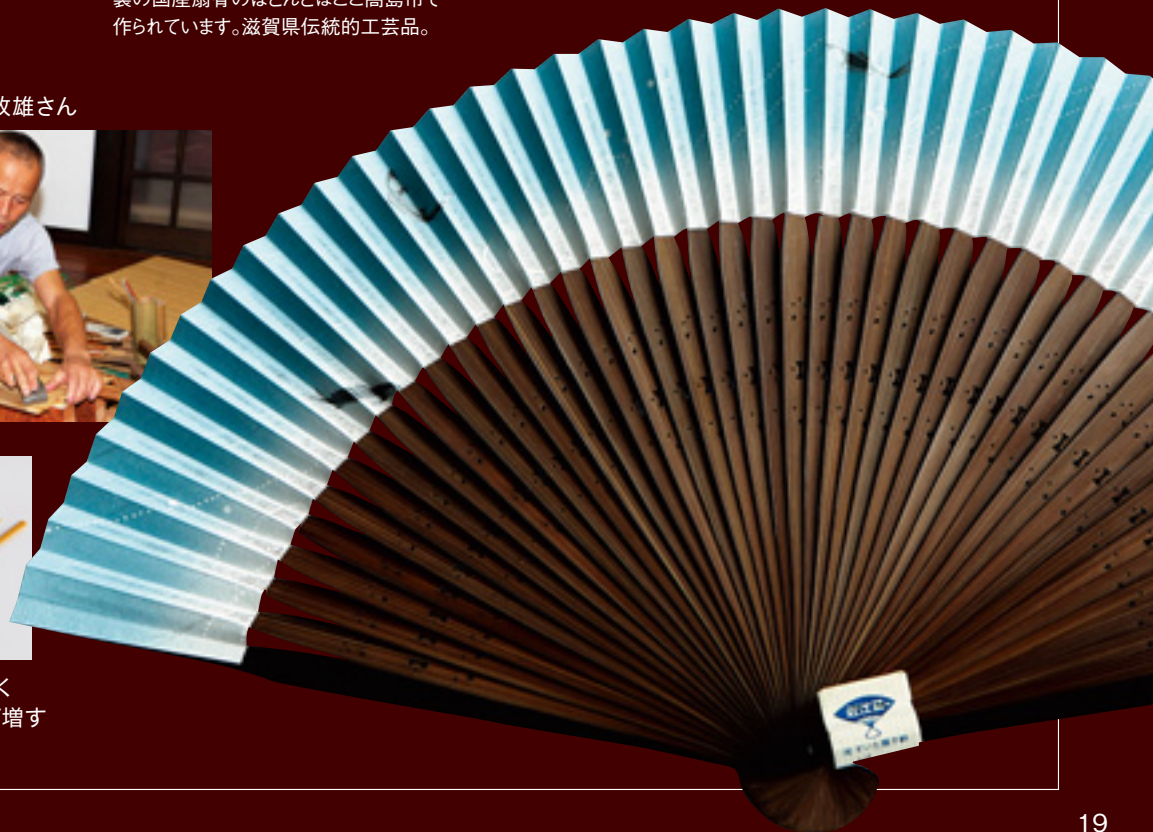
[扇骨]

扇骨は名前通り、扇子の骨の部分。安曇川流域に自生する良質の竹材を利用して約300年前に始まったといわれます。竹製の国産扇骨のほとんどはここ高島市で作られています。滋賀県伝統的工芸品。

洗練された職人技
扇骨組合代表の吹田政雄さん



美しく組まれた扇骨、先を細く仕上げることでしなやかさが増す





上)高島ちぢみ
下)帆布



若手経営者の杉岡定弘さんは
伝統を引き継ぎつつ、柔軟な発想で
素材の新たな活用を考案し、
ブランド確立に尽力

[高島織物]

水の豊富な地で昔から盛んな織物業。シボ(凹凸)と呼ばれるしわ加工が特徴の「ちぢみ(綿クレープ)」と、経糸と緯糸が1本ずつ交じり合う丈夫で厚手の「帆布」があります。

培った技術力をもとに
新商品、新市場に挑む

高島市を代表する地場産業の一つ、高島織物。代表的な製品はステテコでおなじみの「ちぢみ」(綿クレープ)と、船の帆やテントなどの産業生活資材としても用いられている帆布。ここ高島は国内を代表する織物の産地です。

近年は「高島ちぢみ」「高島帆布」として商標登録も果たし、ブランド力がさらに浸透。新しい模様の追求や、デザイナーと連携した商品の開発などに取り組んでいます。これを使ったバッグや小物を製造する工房も誕生。高島の織物業は生地メーカーの枠を超え、積極的に新商品、新市場の開拓に挑んでいます。



高島産のちぢみや帆布で作られたバッグ

地元産の生地を使う製品は衣料品以外の分野にも広がっています。

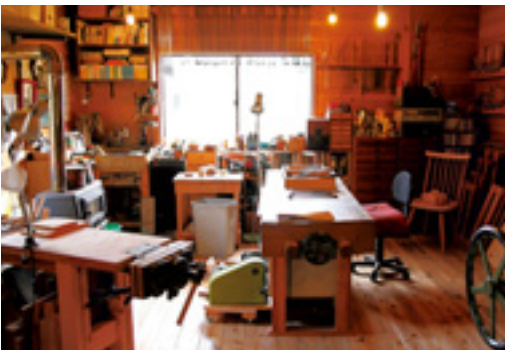


大西巧さんが持つのは、グッドデザイン賞を受賞した「お米のろうそく」。お米の糠(ぬか)を原料に作られた和ろうそくの新商品

[和ろうそく]

檀(ハゼ)の実を原料に作る植物性のろうそく。すが少なく、燃え方に味わいがあるといわれ、福井の永平寺をはじめ、寺院御用達のろうそくです。昔ながらの手法で一本一本手作りされる滋賀県伝統的工芸品。

新たな創造の足音



風と土の交響

開催期間中は作家さんの工房や住まいも開放。作品だけではなく、その仕事や暮らしの現場にふれることもできます。

風の人、土の人

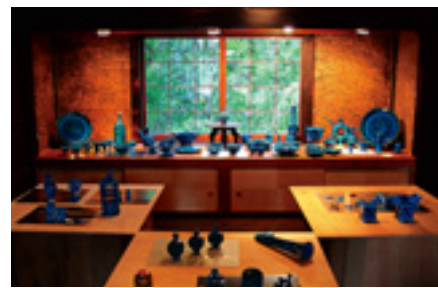
高島に創作の場を求め、移住してきた人や市外からの出展者、来訪者を「風の人」、高島で生まれ育った地元の人々を「土の人」。「風と土の交響」という言葉には、両者の仕事や暮らしを多くの方々に見てもらい、相互に交流を深めることで、高島の魅力を感じてほしいという願いが込められています。



高島市には、この地の自然や風土に魅せられ、創作活動の場として移り住んだ多くの人がいます。

「風と土の交響 in 琵琶湖 高島」は高島で木工、陶芸、染織、農業、古民家再生などに携わる人たちの仕事や暮らしをを紹介し、訪れる人や地域住民との交流の場にしようという取り組み。新たな出会い、つながりの輪が年々広がっています。

創作活動を
通じて
新たな出会いと
交流が





ビジネスプランオーデイション

創業や事業化にかける熱い思いを専門家が審査、サポートや資金援助で応えます。写真は「高島クレープ&帆布ブランド化事業」でグランプリを受賞した山本玄匠さん。高島在住の世界的に著名な染色芸術家です。

つながる想い

人々の取り組みが
まちの至るところで
広がっています

高島市には、まちづくりをはじめとする創造的な活動に取り組む市民団体やグループがいくつもあります。

活力ある地域社会のバロメーターといえるのがこうした市民活動の多彩さ。市では「たかしま市民協働交流センター」を拠点に、市民の主体的、自発的な活動を積極的に支援しています。



たかしま・未来・円卓会議

地域の課題を自分ごととして考えてみる。多様な考えを集めれば、新しい気付きや連携が生まれます。市民による市民のためのまちづくりを目指し、新しいつながりを生んでいます。



おっきん^{むくがわ} 椋川交流館

地域に伝わる暮らしの知恵にみんな感心。築140年の茅葺き農家を拠点に、都市住民と地域の人々の交流やつながりが生まれています。

高島市市民劇

高島に題材をとった脚本をもとに、市内の文化団体をはじめ、多くの市民が参加して作りあげる創作劇。地域の歴史や文化を知り、地域住民が交わる場となっています。





高島で暮らそう

見つけた!

自分らしい生き方。

このまちが気に入っています。

ご紹介するのは、出身地も、年齢も、仕事も、それぞれ様々な新住民の皆さん。
高島市に移り住んだ経緯や現在の住み心地、将来への思いなどを語っていただきました。

陶芸家
岡野 史子さん



笑顔の素敵な岡野さん。週3日は市内事業所で勤務し、創作活動との両立を図っています。

我が家は蔵付きの古民家。
自然の中で、職住一体の暮らし。

自宅兼工房を探して

実家は大阪です。独立して陶芸の仕事をするため、自宅を兼ねた工房を探していました。条件は自然が豊かで、空が広く、水のきれいなところ。全部満たすところが高島でした。自然を眺めながら暮らしたいと常々思っていたので、住むところと仕事をするとところを分ける気はなかったですね。

高島は親切でオープン

以前、自転車で琵琶湖を二周した時に感じたのですが、ここ高島は人が親切で優しい。しかも田舎にありがちな閉鎖的なところが無いのが印象的でした。都会にも近く、陶芸の仕事で

大阪や京都、名古屋に行くにも便利です。

蔵付きのマイホーム

蔵付きの今の家は買い取りで、不動産屋さんも太鼓判。比較的新しいため、すぐ住めました。自分の思うような家にしたくて床を張り替えたり、自分で少しずつ改修しています。



自宅兼工房で生まれた作品



「和みのヨーガ」
インストラクター

やりわけ
鎗分 ゆかりさん



穏やかな人柄の鎗分さん。教えている
ヨーガも癒し効果あふれるソフトなもの

越してきたら、気持ちがあつたり。
やりたいことも見つかる。

市のあつせんで移住

大阪から近い場所を考えていました。情報誌で高島を知り、その風景に魅かれて決断。移住者の先輩を訪ねて相談する中で、市の定住相談窓口を紹介してもらいました。

高島は子育てに最適

大阪では団地の7階に住んでいました。土にふれない生活だと子どもがイライラしがち。遊ばせるのも、家の中だと階下に気を使い、外だと車が心配。いつも怒ってばかりでした。それがこちらに来たら、私も子どももすっきり気持ちがよつたり。図書館や公園も身近で、子育てには本当にいいところですね。

女性が輝ける場

今の仕事は起業女性の交流イベント「わたしへのごほうびDay」参加がきっかけ。高島は女性が互いに刺激し合つて、やりたいことを実現できるところ。今後、移住者ならではの視点で、高島の良さを見つけていきたいです。



日当たりのいい子ども部屋。
広い家でお子さんは大喜びとか

移り住んでもう7年。
今ではすっかり地元人。

結婚を機に朽木へ

私たち夫婦は、「緑のふるさと協力隊※」の同期生。妻の赴任先だった朽木を訪ねたとき、地域に溶け込んでいる妻の姿が将来の自分のように思えました。その後、結婚を機にこちらへ。今年で移住して8年目、3人の子どもに恵まれています。

暮らし心地

自治会の役員を引き受けたおかげで、人間関係が広がり、地域との絆も深まりました。ここは食べ物がいちよく、環境もいい。何より人のつながりが密接で、子育てにいいところですよ。1時間もあれば大津や京



観光協会では、高島の魅力を
様々な切り口で発信中

これからの夢

仕事にも関係しますが、地元の人や資源を掘り起こし、高島市、朽木を盛り上げていくのが夢。そして、地域の良さを誇りを子どもたちに伝えていきたいと思っています。

古くは名育ちの郷土が大好きな都会の子どもが自然から学ぶ機会が豊富です。

「びわ湖高島
観光協会」勤務

坂井田 智宏さん



※若者を農山村に年間派遣し、様々な地域起こしを体験させ、地域を活性化する取り組み。



交通は？

大阪・京都への アクセス良好

交通の便は暮らす上でとても重要です。高島はJR湖西線新快速で近江今津駅から京都駅まで50分、大阪駅まで80分。車なら国道161号経由で名神高速道路京都東ICまで1時間程度。通勤・通学からお出かけまで、ネットワークの良さが自慢です。



JR湖西線

暮らしの
選択肢が
増えるね



高島で 暮らそう



国道161号

学校の外も 学びの場

高島では、教室の授業だけでなく、里山体験や田植えなど、地域での体験学習の場も豊富。子どもたちが地域の人や自然とふれあい、学ぶことを通じ、豊かな人間性を育ててほしいと願っています。



カヌー教室

教育は？

小・中の9年間で
たくさん
学べるよ



高島学園

進む 小中一貫教育

高島では、義務教育9年間を見据え、一貫性のある系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行う小中一貫教育を実施しています。その先がけ「高島学園」は県下初の公立小中一貫校です。





地域医療が ますます充実

新病棟、健診センターが完成し、地域の基幹病院「高島市民病院」が開院。「朽木診療所」も新築移転が完了。地域医療が体制、機能とも充実しています。



高島市民病院



朽木診療所

医療体制 は？



医療機関の
連携で
ますます安心

地域で 見守る環境

一人暮らしの高齢者や子ども、障がいのある人など支援が必要な人を、地域住民で見守り、支え合う「見守りネットワーク」。市内事業者とも連携し、事故や孤立を防ぎ、安心して暮らせるまちづくりを地域ぐるみで進めています。

コミュニティ は？



見守りネットワーク

災害に備えた 地域の動き

高島には、地域に根ざした助け合いの心があり、住民同士が強い絆で結ばれています。市では、こうした地域コミュニティの維持・強化に努め、非常時にはだれもがボランティアとして助け合える地域づくりを目指しています。

また、大規模災害の発生時には多くの労力や物資が必要となることから、他の自治体や団体、企業と応援協定を結んでいます。



高島市災害ボランティア連絡協議会

道の駅



おっさかとうげ
マキノ追坂峠

ピワマスバーガーや地元産の炭で焼いたお餅はここだけの逸品。米粉パン、朝どりの新鮮野菜も人気です。

敦賀市

長浜市

美浜町

若狭町

琵琶湖

道の駅



しんあさひ風車村

風車がシンボルの園内はオランダの田園をイメージしたもの。花菖蒲とルピナスが咲く初夏は一際にぎわいます。

道の駅



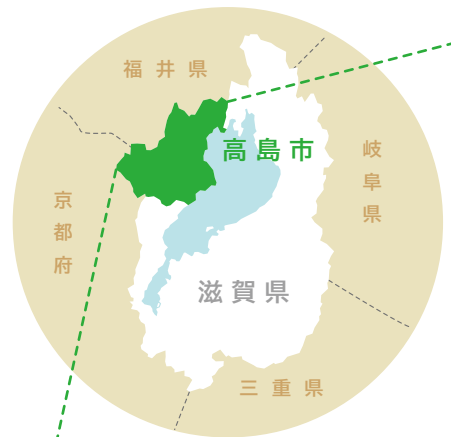
藤樹の里あどがわ

安曇川の伝統工芸品、扇子のモニュメントが目印。食や地域の特産品が充実。眼と健康に良いアドベリー製品も是非。



TAKASHIMA P

高島の魅力発見!



京阪神から近くて
一年中楽しめる

琵琶湖と比良山地に抱かれた高島市は夏の水泳、冬のスキーをはじめ、キャンプ、山歩きなど、年中アウトドアが楽しめる場所。市内には、そんな観光・レジャーの拠点となる「道の駅」が4カ所、見どころとしておすすめの「日本の百選」が13カ所もあります。魅力が余すところなく詰まった名所、それが高島なんです。

アクセスは車なら名神高速道路京都東IC経由、電車ならJR湖西線新快速を利用して、いずれも京都から1時間程度。市内には駅が6つもあって、周遊も便利です。

高島市内の パワースポット

高島市内には、満月を背景にした神秘的な白鬚神社の鳥居、神代文字を刻むと伝えられる安閑神社の石碑など、神秘的なスポットが多数点在。春分と秋分には、琵琶湖に浮かぶ竹生島と対岸の伊吹山が重なる場所から日の出を見ることも。歴史や自然など、思い思いのテーマでコース設定をして、高島の魅力を探索してください。



左上) 竹生島と伊吹山、
左下) ホツマ文字の刻まれた石碑、右) 白鬚神社の鳥居



道の駅

くつき新本陣
日曜朝市が人気の的。野菜や手作り惣菜、鯖のなれずし、栃もちなど、朽木の特産がところ狭しと並びます。



未来へつながる

医療



医療情報連携ネットワーク

地域の中核病院「高島市民病院」を中心に、他の医療機関との連携を進めます。滋賀県医療情報連携ネットワーク、および遠隔病理診断ネットワークへの参加により、在宅医療の推進や病理診断機能の向上を図ります。また、医療・介護・福祉が連携した総合的なケアシステムを構築します。

明日の高島を見すえて

平成27年は「高島市」が誕生して10周年にあたる節目の年。

これまで高島市では、旧高島郡5町1村から成る地域の一体化と、各地域の個性を尊重し、生かすこととの双方に力を注いできました。

将来を展望する上で欠かせないのが、中長期的な視点に立った行財政運営です。

その基本的な姿勢として、市民と行政が同じ視点に立ち、共に考え、行動していくことがより一層求められます。

高島市のさらなる発展と住民福祉の向上を念頭に置いた、未来へつながるまちづくりの一端を紹介します。

産業



高島市産木材の活用(朽木診療所)

林業は古くからの地場産業。豊富な森林資源の多面的な活用を図ります。具体的には、高島市産木材の建築物への優先的活用を促し、林業から建築業まで、関連産業全体の活性化を図ります。併せて、間伐材を活用した商品の開発や産業の育成に取り組めます。



新 エネルギー

まちづくり



ソーラーパネルの導入

高島市では、環境負荷の少ない循環型社会を推進するため、自然エネルギー活用を推進しています。太陽光発電システムを市有施設に導入し、住宅や事業所の屋根等への設置を支援するとともに、市内の豊かな水資源を活用した小水力発電を推進するなど、市民参加による新エネルギー普及を図っています。

食

高島産農作物の販路拡大のため、生産から認証・PR、流通・販売まで、一貫して取り組みます。中でも、学校給食への地元産野菜の供給に力を入れます。また、家庭や学校を中心に食育を推進、高島の伝統的食文化の継承に努めます。



地元産野菜



駅のバリアフリー

国道161号、303号、367号などの幹線道路は、防災の観点からも引き続き、未整備区間の解消を図ります。防風柵延長や、堅田駅以北の折り返し設備が計画されるJR湖西線についても、ダイヤ増便などの改善や、高齢者および障がいのある人にも配慮した駅のバリアフリー化を進め一層の利便性向上を求めるとともに、JR湖西線の各駅前の再整備など賑わい空間の整備に取り組みます。

基盤整備



海津・西浜の石積み

高島の 歴史みちを 散策

先人の息づかいを感じる
高島の歴史遺産と歳時記。
過去と現在いまを結ぶ時の回廊を往く。



乙女ヶ池



大溝城跡

大溝城は織田信長の甥、信澄が天正6年(1578)に築城。本丸南東の乙女ヶ池は琵琶湖の内湖で、外濠として利用されました。

過去から 受け継ぐ 文化風景

地域の生活と歴史を 映し出す水辺

琵琶湖に臨み、水とは昔から切っても切れない高島市。江戸時代、北国街道の宿場・港町として栄えた「海津・西浜・知内」地区には、家を波風から守るため築かれた石積みや町家が現存。河口では伝統的なやな漁も見られます。湧水の豊富な「針江・霜降」地区は集落と河川、水田、ヨシ原などが一体となって、まれに見る水循環システムを形成。国の重要な文化的景観に選定される両地区をはじめ、市内の水辺には、暮らしとともに長い時間をかけて形づくられた景観が息づいています。



川端



洗い場

水辺の風物詩

水が暮らしの一部となっている風景が今も市内各所に。琵琶湖畔の洗い場「橋板」、鯉も泳ぐ生活用水「川端(かばた)」などは代表的なものです。

勝野地区の町並み

江戸時代、分部(わけべ)氏2万石の城下町として栄えた高島市勝野地区には、今も往時を偲ぶ水路や豪壮な町家が残っています。近年はその一角にある「高島びれっじ」が観光客の人気を集めています。



大溝陣屋・総門





海津力士まつり

毎年4月29日に行われる海津天神社の春の例大祭。江戸時代、廻船問屋で働く若者たちが力士をまねて化粧まわしを着けたのが始まりといわれています。



大溝祭 勝野地区にある日吉神社の春の例祭で、5月4日開催。5基の曳山が旧城下町を巡行。湖西随一の曳山祭といわれます。



七川祭

大荒比古神社の例祭で、湖西随一の馬祭りといわれます。毎年5月4日開催。県選択の無形民俗文化財「奴振り」が見ものです。



川上祭

酒波(さなみ)の日置神社、北仰(きとげ)の津野神社、両社共同の春祭り、毎年4月18日に行われます。



田中祭

毎年5月4日に行われる田中神社の例大祭。勇壮な流鏝馬(やぶさめ)神事で有名です。

市内各所で折々に行われる伝統行事。高島の場合、見ものは春。城下町ゆかりの大溝祭、湖西随一の馬祭りといわれる七川祭、舟運で栄えた港町ゆかりの海津力士まつりなど、地域の歴史や生業を今に伝える祭礼が4月から5月にかけてめじろ押しです。

一方、夏祭りといえば高島音頭。歌われている内容は当時の世相を知る格好の手がかり。有志によって、古い資料の発掘や保存・継承活動が進められています。また、林業が盛んな朽木地区では、山の神を祀る素朴な行事が代々受け継がれています。

人から人へ代々…
生きていく歴史
伝統行事



高島音頭

高島市一帯に古くから伝わる盆踊り歌。江戸時代の歌詞集などの貴重な資料が残っており、「高島音頭保存会」によってCDも作成されるなど、保存・普及活動に力を入れています。



ヴォーリス建築

大正から昭和にかけて滋賀県を拠点に活躍したアメリカ人建築家、ウィリアム・メレル・ヴォーリスが設計した建物の総称。高島市内には、今津ヴォーリス資料館(写真)、今津教会、旧今津郵便局などが残っています。



丸八百貨店

昭和8年(1933)に建てられた木造3階建てのレトロな洋館。現在はカフェとして利用されています。



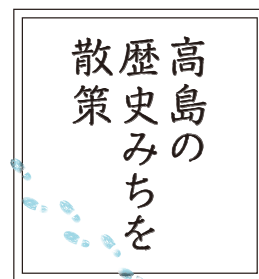
旧江若鉄道・近江今津駅舎

現在のJR湖西線開通以前に、この地を走っていた江若鉄道の現存する唯一の駅舎で、昭和5年(1930)竣工。

高島の歴史を刻んだ時代のランドマーク

日本海と京の都を結ぶ交通の要衝として、古くから多くの人や物資が行き交った高島の地。市内に数多く点在する古墳から、昭和初期の名建築に至るまで、高島の歴史を刻んだランドマークは驚くほど幅広く、時代により、種類も豊富。どれも歴史的価値の高いものばかりで、この地の先進性、拠点性の高さを物語るものといえます。

また、この地が輩出した偉人たちの顔ぶれも多士済々、その業績と遺徳は今なお語り継がれ、私たちの誇りとなっています。



田中古墳群



鴨稻荷山古墳



朽木池の沢庭園



旧秀隣寺庭園

高島が生んだ郷土の偉人

中江藤樹

1608-1648

江戸時代初期の儒学者で、我が国の陽明学の開祖。徳の高い人柄から「近江聖人」と称えられました。

浅見綱斎

1652-1711

江戸時代の儒学者・思想家。多くの著作を残し、明治維新の志士たちに大きな思想的影響を与えました。

清水安三

1891-1988

戦前の中国で多くの貧しい子女の教育に従事し、「北京の聖者」と言われた。戦後は現在の桜美林学園を創設、経営しました。

大谷仁兵衛

1865-1956

15歳で京都の書店に奉公。その後、法規や行政に関わる書物の出版で知られる実業家となりました。

平成17年
(2005)

1月

■ マキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町5町1村が合併し、高島市が誕生する

■ 高島市誕生記念式典開催

■ たかしま「環の郷」フォーラム開催

■ 吹田市とフレンドシップ交流・災害応援協定を締結

■ 第12回全国山城サミット開催

■ 高島市が景観法に基づく景観行政団体となる

平成18年
(2006)

2月

■ 高島市全域が滋賀県経済振興特別区域「びわ湖・里山観光振興特別区域」の認定を受ける

■ 「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に「やな」が選定

■ 朽木村井で大規模な地滑り発生

■ 高島市食と農の交流施設「たいさんじ風花の丘」開設

■ 守口市と友好交流・災害応援協定を締結

■ 「快水浴場百選」に「マキノサニビーチ」が選定

■ 日本再発見塾「N高島開校

■ 道の駅「藤樹の里あどがわ」開設

■ 大洲市と友好交流調印

■ 北陸本線 湖西線直流化開業

平成19年
(2007)

2月

■ 若狭町と災害時の相互協力に関する協定を締結

■ 高島市総合計画を策定

■ インターネットテレビ「高島みてねっと」開設

■ 藤樹書院跡に「中江藤樹墓所」が追加指定

■ 第1回たかしま市民祭り開催(以降毎年開催)

■ 継体天皇即位1500年記念事業「高島歴史フォーラム」開催

■ 藤樹先生生誕400年祭「マスコットキャラクタ「よえもん君」が誕生

■ 全国トレイルサミット in 高島2007開催

■ 高島市が地方自治法施行60周年記念総務大臣表彰を受賞

11月

■ 中江藤樹生誕400年祭が約7カ月間にわたり開催

■ 重要文化的景観に「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」が選定

3月

■ 重要文化的景観に「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」が選定

■ 重要文化的景観に「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」が選定

あゆみの10年

平成17年(2005)



高島市消防団出初式

平成23年(2011)



朽木東小学校・朽木中学校
屋内運動場竣工

平成16年(2004)

合併調印式

合併をめぐって
あのころ、あのとき

高島市の前身はマキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町の旧高島郡5町1村。平成14年に「高島地域合併協議会」を設立。平成16年6月1日には合併協定調印式が行われ、新しいまちづくりのためのスタートを切りました。その後、公募により新市名、市章も決定し、平成17年1月1日、県内で12番目の市となる高島市が誕生しました。



<p>平成21年 (2009)</p>	<p>4月 ■ 今津町棕川にECC学園高等学校が設立 ■ 「平成の名水百選」に「針江の生水」が選定 ■ 小浜市と災害時の相互応援に関する協定を締結 ■ 第1回市民劇「藤の樹と風とー中江藤樹物語ー」を上演 ■ 若狭町、小浜市と連携・協力して、「琵琶湖と若狭湾を結ぶシンポジウム」開催 ■ 市民や市内で働く労働者の生活を守るため「高島市生活・雇用緊急対策会議」を設置 ■ JR湖西線(比良〜近江舞子駅間)の防風柵が完成</p>
<p>平成22年 (2010)</p>	<p>3月 ■ JR安曇川駅エレベーター設置 4月 ■ 高島市都市農村交流施設「おつきん棕川交流館」竣工 5月 ■ たかしま市民協働交流センターの開設 8月 ■ 高島市国際協会設立 11月 ■ (社)滋賀県エルピーガス協会高島支部と災害時の応援復旧に関する協定を締結 ■ 平成24年春開院に向け、公立高島総合病院整備事業の関係工事着手</p>
<p>平成23年 (2011)</p>	<p>3月 ■ 農林水産省の「ため池百選」に「淡海湖」が選定 ■ 高島市医師会・高島市歯科医師会・高島市薬剤師会と災害時の医療救援活動に関する協定を締結 ■ 高島市立小中一貫教育校「高島学園」開校 4月 ■ 社団法人滋賀県トラック協会湖西支部と災害時における物資等の輸送に関する協定を締結 6月 ■ 高島市山岳遭難防止対策協議会設立 8月 ■ 重要文化的景観に「高島市針江・霜降の水辺景観」が選定 ■ 第8回ラムサール条約登録湿地関係市町村長会議が開催 10月 ■ 吹田市・高島市産業経済交流会開催 11月 ■ 高島市市制5周年記念・高島市市民劇2010「琵琶湖治水の物語」を上演</p>
	<p>3月 ■ 朽木東小学校・朽木中学校屋内運動場竣工(学有林から切り出した地元木材を使用) ■ 「東北地方太平洋沖地震災害支援本部」を設置し、様々な支援活動を展開</p>

平成25年(2013)



全国発酵食品サミット in たかしま開催

平成24年(2012)



大雪警戒本部設置、自衛隊派遣要請

平成26年(2014)



JR湖西線開通40周年記念イベント開催

平成25年(2013)



上御殿遺跡から双環柄頭短剣の鋳型が出土

<p>平成24年 (2012)</p>	<p>4月 ■ 「ごみ減量大作戦スタート」 ■ 「高島市農業再生協議会」設立 ■ 市内の農業協同組合4団体と災害時の応急対策に関する協定を締結 ■ 「高島市農産ブランド認証制度」の開始 7月 ■ 市役所内に「原子力防災対策室」を新設 ■ 若者定住促進プロジェクト「空き家紹介システム」をスタート 9月 ■ 環境放射線の測定開始</p>
<p>平成25年 (2013)</p>	<p>3月 ■ 「朽木池の沢庭園」が国の名勝に指定 ■ 大雪警戒本部設置、自衛隊派遣要請 ■ JR湖西線(近江舞子〜北小松駅間)の防風柵が完成 ■ マキノ東小学校屋内運動場竣工 ■ JR近江高島駅エレベーター設置 ■ 滋賀県石油商業組合高島支部、高島市漁業振興連絡会、公益社団法人隊友会滋賀県隊友会高島支部と災害時の応急対策に関する協定等を締結 ■ 朽木西小学校平分校閉校 ■ 高島市市民病院開院 5月 ■ 国土交通省近畿地方整備局と災害時等の応援に関する申し合わせを締結 6月 ■ 上御殿遺跡から双環柄頭短剣の鋳型が出土 8月 ■ 台風18号による豪雨により鴨川が決壊、全国初の特別警報発表 9月 ■ 饗庭野演習場で、国内で初めてのオスプレイを使用した日米共同訓練実施 10月 ■ 高島市市民劇2013「木槿の花の咲く頃 清水安二物語」を上演 12月 ■ 全国発酵食品サミット in たかしま開催</p>
<p>平成26年 (2014)</p>	<p>7月 ■ JR湖西線開通40周年記念イベント開催 9月 ■ 滋賀県建築士会担当地区高島地区委員会と災害時における避難施設等の安全確認に関する協定を締結 10月 ■ 「高島市観光物産「フザ」」開設 ■ 日本郵便株式会社と高島市内郵便局および堅田郵便局との連携・協力に関する協定書締結</p>

市の概要

位置 滋賀県北西部

面積 総面積693km²
(うち琵琶湖の面積181.64km²)

気候 日本海側気候、晩秋には「高島しぐれ」と呼ばれる降雨がしばしばある

友好都市

国内

- 大阪府吹田市
- 大阪府守口市
- 愛媛県大洲市

国外

- アメリカ合衆国ミシガン州
ペトスキー市

滋賀県高島市は、琵琶湖の北西部に位置し、古来、京都・奈良の都と北陸を結ぶ交通の要衝として栄えました。中でも陸上交通は比叡・比良山麓を湖畔に沿って走る西近江路や、日本海で水揚げされた鯖を運搬したことから「鯖街道」と呼ばれた若狭街道での往来が盛んでした。また、この地は大津方面への湖上交通の拠点でもあったことから、港町や宿場町としても賑わいました。

気候的には、日本海側に近いことから冬季の寒さは厳しく、積雪量の多い日本海側気候となっています。また、晩秋には「高島しぐれ」と呼ばれる降雨がしばしばあります。

歴史の面では、近江聖人と称えられた日本陽明学の始祖、中江藤樹先生生誕の地として知られているとともに、数多くの高島商人（近江商人）を送り出した土地柄でもあります。





市の鳥

ヒバリ

市内の農耕地に多い鳥で、早春から夏にかけてビイビイ、ピチクリピチクリとさえずりながら翼を早く羽ばたかせて、空高く舞い上がり、一気に舞い降りてくる様子を見ることが出来ます。「揚げ雲雀(ひばり)」と呼ばれる高い所を目指して飛ぶ姿に、高い理念を掲げてその実現を目指す市民の行動規範を表します。また、農耕地によく見られることから、農業の振興や美しい田園風景を保全する姿勢を表します。



市の木

サクラ

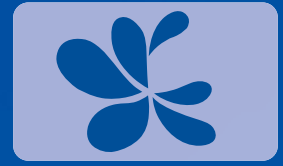
市内に名所が多く存在し、市民の保全活動も活発に行われるなど、市民の心のよりどころであり、自然環境を守り育てていこうとする気概を表すものです。市内に自生するサクラの種類も豊富で、植え付けられたものも多く、人々を魅了する様子は、明るく希望に満ち、人が行き交い栄えるまちのシンボルと、また、長寿のサクラは、市の持続的な発展と市政や市民活動の継続性を目指す姿勢を表します。



市の花

カキツバタ

水湿地に群生し、5月から6月にかけて紫色の花をつけます。市内の湿地帯や沼などに多く自生し、また、栽培されているものもたくさん見られます。花のつくりは内花被片3枚、外花被片3枚の計6枚からなり、6町村の合併により誕生した市の成り立ちを後生に残すとともに一体感の醸成を図ります。また、万葉の時代から文学・芸術の題材にもなっています。これらのことから、6地域の協調性と文化を深めていこうとする姿を表します。



市章

花をモチーフにし、6町村をそれぞれ1枚の花びらに見立て、各花びらは、地図上の6町村の位置と対応しており、このデザイン全体で「高島市」を表しています。6町村が合併することで、互いに協力し合い、大輪の花が咲くように発展して欲しいという願いを込めて、6枚の花びらが一つの花を咲かそうとしている姿を表します。



市役所までのアクセス

自動車をご利用の場合

- 舞鶴若狭自動車道小浜IC下車、国道303号・国道161号経由、約1時間
- 名神高速道路京都東IC下車、国道161号経由、約1時間
- 北陸自動車道木之本IC下車、国道303号・国道161号経由、約40分
- 北陸自動車道敦賀IC下車、国道8号・国道161号経由、約45分

電車(JR)をご利用の場合

- 敦賀駅からJR湖西線 新快速で新旭駅まで50分、徒歩2分
- 京都駅からJR湖西線 新快速で新旭駅まで45分、徒歩2分

つながる、高島



未来へつなぐ、
人と自然のまちづくり

高島市市勢要覧

平成26年10月発行
高島市役所

〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
TEL 0740-25-8000(代) FAX 0740-25-8101
<http://www.city.takashima.lg.jp/>